

美広監 第 6 号
令和 7 年 9 月 2 日

美方郡広域事務組合
管理者 西 村 銀 三 様

美方郡広域事務組合

監査委員 岡 本 和 彦

監査委員 米 田 雅 代

令和 6 年度美方郡広域事務組合一般会計歳入歳出決算審査意見の
提出について

地方自治法第 2 3 3 条第 2 項の規定により審査に付された令和 6 年度美方郡広域事務組合一般会計歳入歳出決算について審査したので、次のとおり審査意見を提出します。

令和6年度美方郡広域事務組合一般会計歳入歳出決算審査意見

第1 審査の対象

令和6年度美方郡広域事務組合一般会計歳入歳出決算

第2 審査の実施日

令和7年8月19日（火） 1日

第3 審査の主眼と方法

管理者から審査に付された令和6年度一般会計歳入歳出決算書及び附属書類について、関係法令・規則に基づいて調整されているか、財政の運営状況は健全か、財産管理は適正か、予算は適正かつ効率的に執行されているかに主眼をおき、関係書類の提出を求め、事項別に説明を聴取しつつ令和6年度中に実施した出納検査、定期監査の結果も参考にしながら関係諸帳簿及び証拠書類等との照合による審査を実施した。

また、職員の服務状況等について、出勤簿（タイムカード）、出張命令書等と関係諸帳簿を突合し照合を行った。

第4 審査の結果

審査に付された一般会計歳入歳出決算書、同事項別明細書は、法令に基づいて調整されており、計数は関係諸帳簿及び証拠書類等と照合した結果、誤りはなく記載されていることを確認した。

第5 事業の概要

厳しい財政状況の下、本組合を構成する両町が懸命に行財政改革に取り組んでいる中、事業費の大半が負担金である本組合も経常経費の抑制に努め財政の健全化に努めるべく、令和6年度当初予算は913,820千円（前年度対比1.3%の増）の規模で予算編成がされている。

各事業の推進に当たっては、美方郡民の「安心と安全」を基本に捉え取り組みが行われている。

1. 令和6年度火葬事業について

火葬事業の状況については、第1表のとおりである。

第1表 火葬場使用料件数

(単位：件)

町 別	香 美 町			新 温 泉 町			管 外	合 計
	村岡区	小代区	計	浜坂地域	温泉地域	計		
	72 (66)	53 (49)	125 (115)	155 (154)	96 (91)	251 (245)		

(注)：表中の（ ）内の数字は、令和5年度の火葬場使用料件数である。

令和6年度の火葬場使用料件数は389件で、前年度(371件)に比べ18件増加している。

町別にみると、香美町が125件で前年度(115件)に比べ10件増加し、新温泉町は251件で、前年度(245件)に比べ6件増加している。

2. 令和6年度消防事業について

消防事業の状況については、第2表から第6表のとおりである。

第2表 出動件数

(単位：件)

町別 種別	合 計	香 美 町				新 温 泉 町			管外
			香住区	村岡区	小代区		浜坂地域	温泉地域	
火災出動	18 (10)	10 (4)	6 (4)	4		8 (6)	4 (4)	4 (2)	
救急出動	1,973 (1,976)	1,035 (1,020)	554 (577)	340 (316)	141 (127)	938 (956)	564 (584)	374 (372)	
救助出動	34 (46)	9 (18)	6 (12)	2 (5)	1 (1)	25 (28)	13 (15)	12 (13)	
支援出動	541 (539)	279 (273)	182 (178)	75 (65)	22 (30)	262 (266)	145 (144)	117 (122)	
その他の出動	54 (45)	23 (25)	16 (13)	6 (6)	1 (6)	31 (20)	12 (15)	19 (5)	
合 計	2,620 (2,616)	1,356 (1,340)	764 (784)	427 (392)	165 (164)	1,264 (1,276)	738 (762)	526 (514)	

(注)：表中の（ ）内の数字は、令和5年度の出動件数である。なお、火災出動は事後聞知を含む。

令和6年度中の災害出動件数は2,620件で、前年度(2,616件)に比べて4件増加している。

出動種別をみると「救急出動」が1,973件で最も多く全体の75.3%を占め、次いでドクターヘリ支援及び救急現場支援のための「支援出動」が541件で20.6%、「その他の出動」が54件で2.1%、「救助出動」が34件で1.3%、「火災出動」が18件で0.7%となっている。

出動件数を町別にみると、香美町が1,356件で前年度(1,340件)と比べて16件増加し全体の51.8%を占め、新温泉町が1,264件で前年度(1,276件)と比べて12件減少し全体の48.2%となっている。

第3表 火災発生状況

(単位：件)

種別	町別	合 計	香 美 町				新 温 泉 町		
			香住区	村岡区	小代区		浜坂地域	温泉地域	
火災発生件数	(件)	18 (10)	10 (4)	6 (4)	4		8 (6)	4 (4)	4 (2)
	建 物	10 (3)	6 (1)	5 (1)	1		4 (2)	2 (1)	2 (1)
	林 野	1	1		1				
	車 両	2 (1)	1 (1)	(1)	1		1		1
	船 舶	(1)	(1)	(1)					
	航空機								
	その他	5 (5)	2 (1)	1 (1)	1		3 (4)	2 (3)	1 (1)
損害額	(千円)	152,914 (2,244)	150,552 (1,792)	150,456 (1,792)	96		2,362 (452)	1,568 (102)	794 (350)
	建 物	152,694 (1,192)	150,403 (742)	150,403 (742)			2,291 (450)	1,568 (101)	723 (349)
	林 野	76	76		76				
	車 両	99 (1,050)	29 (1,050)	9 (1,050)	20		70		70
	船 舶								
	航空機								
	その他	45 (2)	44	44			1 (2)	(1)	1 (1)

(注)：表中の()内の数字は、令和5年度の火災発生件数である。

令和6年度中の火災発生件数は18件で、前年度(10件)と比べて8件増加している。内訳は「建物」が10件で全体の55.6%を占め、「その他火災」が5件、「車両火災」が2件、「林野火災」が1件となっている。

町別にみると、香美町が10件で前年度(4件)に比べて6件増加し、新温泉町が8件で前年度(6件)と比べ2件増加している。

損害額については、全体で152,914千円となっており、建物火災による損害は、152,694千円で全体の99.9%を占めている。

第4表 救急出動件数

(単位：件)

種別	町別 合 計	香 美 町				新 温 泉 町			管 外
			香住区	村岡区	小代区		浜坂地域	温泉地域	
合 計	1,973 (1,976)	1,035 (1,020)	554 (577)	340 (316)	141 (127)	938 (956)	564 (584)	374 (372)	
火 災	14 (4)	8 (2)	6 (2)	2		6 (2)	3	3 (2)	
自然災害	(3)	(3)	(3)						
水難事故	7 (9)	4 (6)	4 (6)			3 (3)	2 (3)	1	
交通事故	87 (89)	38 (44)	20 (28)	15 (15)	3 (1)	49 (45)	25 (23)	24 (22)	
労働災害	16 (57)	10 (27)	9 (16)	1 (9)	(2)	6 (30)	3 (22)	3 (8)	
運動競技	16 (17)	12 (13)	4 (5)	6 (6)	2 (2)	4 (4)	3 (2)	1 (2)	
一般負傷	356 (330)	214 (175)	95 (74)	79 (70)	40 (31)	142 (155)	73 (86)	69 (69)	
加 害	4 (1)	3 (1)	3 (1)			1	1		
自損行為	9 (8)	3 (1)	3		(1)	6 (7)	6 (5)	(2)	
急 病	1,219 (1,172)	619 (610)	354 (378)	175 (151)	90 (81)	600 (562)	364 (332)	236 (230)	
転院搬送	182 (206)	91 (96)	40 (42)	50 (54)	1	91 (110)	67 (92)	24 (18)	
そ の 他	63 (80)	33 (42)	16 (22)	12 (11)	5 (9)	30 (38)	17 (19)	13 (19)	
搬送件数	1,693 (1,691)	878 (875)	474 (489)	284 (275)	120 (111)	815 (816)	492 (504)	323 (312)	
搬送人数	1,702 (1,698)	882 (880)	476 (494)	286 (275)	120 (111)	820 (818)	493 (505)	327 (313)	

(注)：表中の（ ）内の数字は、令和5年度の件数である。

令和6年度中の救急出動件数は1,973件で、前年度(1,976件)と比べて3件減少し、搬送人数は1,702人で、前年度(1,698人)と比べて4人増加している。

種別ごとにみると、「急病」が1,219件で最も多く全体の61.8%を占め、次いで「一般負傷」が356件、「転院搬送」が182件、「交通事故」が87件であり、この4種別で全体の93.5%を占めている。

町別にみると、香美町が1,035件で前年度(1,020件)と比べて15件増加し、新温泉町が938件で前年度(956件)と比べて18件減少している。

第5表 救急出動件数の推移

(単位：件)

年度 町別	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
香美町	993	1,034	1,071	1,020	1,035
新温泉町	655	730	870	956	938
管外		2			
合計	1,648	1,766	1,941	1,976	1,973

第6表 救助出動件数

(単位：件)

町 別 種 別		合 計	香 美 町			新 温 泉 町			管外	
			香住区	村岡区	小代区		浜坂地域	温泉地域		
出 動 件 数		34 (46)	9 (18)	6 (12)	2 (5)	1 (1)	25 (28)	13 (15)	12 (13)	
火 災	建 物									
	建物以外									
交 通 事 故		13 (16)	3 (5)	2 (3)	(2)	1	10 (11)	4 (4)	6 (7)	
水 難 事 故		4 (7)	2 (5)	2 (5)			2 (2)	1 (2)	1	
風水害等自然災害		(4)	(4)	(3)	(1)					
機械による事故		(1)					(1)		(1)	
建物等による事故		6 (5)	2	1	1		4 (5)	3 (4)	1 (1)	
ガス及び酸欠事故										
爆 発 事 故										
そ の 他 の 事 故		11 (13)	2 (4)	1 (1)	1 (2)	(1)	9 (9)	5 (5)	4 (4)	

(注)：表中の（ ）内の数字は、令和5年度の出動件数である。

令和6年度中の救助出動件数は34件で、前年度（46件）と比べて12件減少している。

種別ごとにみると「交通事故」が13件と最も多く全体の38.2%を占め、「水難事故」が4件、「建物等による事故」が6件、「その他の事故」が11件となっている。

町別にみると、香美町が9件で前年度（18件）と比べ9件減少し、新温泉町が25件で前年度（28件）と比べて3件減少している。

第6 決算審査の状況

1 一般会計

(1) 財政の推移

令和6年度における一般会計決算額は第7表のとおりで、歳入総額915,188千円、歳出総額 903,325 千円で前年度決算額に比較すると歳入総額が0.6%減額し、歳出総額も0.6%減額している。

第7表 一般会計歳入歳出決算額の推移

(単位：千円、%)

年 度	歳 入 総 額	歳 出 総 額	差 引 残 額
令和6年度	915,188	903,325	11,863
前年度対比(%)	△0.6	△0.6	
令和5年度	920,857	909,043	11,814
前年度対比(%)	11.2	11.3	
令和4年度	828,063	816,428	11,635
前年度対比(%)	6.6	6.1	
令和3年度	776,947	769,826	7,121
前年度対比(%)	△8.9	△8.1	
令和2年度	852,504	837,640	14,864
前年度対比(%)	3.2	2.2	
令和元年度	826,317	819,639	6,678
前年度対比(%)	5.0	5.1	

当年度決算については、経常経費等の抑制に努める中、歳入歳出差引残額は11,863千円となり、昨年度より49千円増額している。

また、一般会計決算額の伸び率の推移は、第8表のとおりである。令和元年度を100とした指数において、歳入110.8%、歳出110.2%となっている。

第8表 一般会計決算額の伸び率の推移

(単位：%)

年度 区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
歳 入	103.2	94.0	100.2	111.4	110.8
歳 出	102.2	93.9	99.6	110.9	110.2

(注) 令和元年度を100とした各年度の伸び率の推移

(2) 財政収支の状況

令和6年度の歳入歳出決算状況は、歳入歳出差引額が11,863千円となり、そのうち6,843千円は将来にわたる消防事業の財政健全化のため、消防事業財政調整基金へ繰り入れている。

第9表 実質単年度収支の実績

(単位：千円)

区 分	令和5年度	令和6年度	備 考
歳 入 (A)	920,857	915,188	
歳 出 (B)	909,043	903,325	
形 式 収 支 (C) (A)－(B)	11,814	11,863	
翌年度に繰越すべき 財源 (D)	1,664	1,813	
実 質 収 支 (E) (C)－(D)	10,150	10,050	
前年度実質収支 (F)	9,085	10,150	
単 年 度 収 支 (G) (E)－(F)	1,065	△100	
積 立 金 (H)	5	33	
基金取崩し額 (I)	0	0	
実質単年度収支 (J) (G)＋(H)－(I)	1,070	△67	

(3) 財政の運営状況

① 歳入についてみると、予算現額913,820千円に対する収入済額は915,188千円、調定額に対する収入率は100.0%であり、前年度対比5,669千円減額(0.6%の減)している。

② 歳出についてみると、予算現額913,820千円に対する支出済額は903,325千円で、執行率は98.9%となっている。また、翌年度繰越額は1,813千円、不用額は8,682千円となっている。不用額の主なものは物件費等で、それを鑑みると経常経費の節減に努め、適正な財政運営が遂行されたものと認められる。

第10表 款別歳入の状況

(単位：千円)

款	予算現額	収入済額	予算現額と収入済額の比較	収入率 %	構成比率 %
1. 分担金及び負担金	877,813	877,813	0	100.0	95.9
2. 使用料及び手数料	14,981	16,175	1,194	108.0	1.8
3. 財産収入	35	33	△2	94.3	0.0
4. 寄附金	1	0	△1	0.0	0.0
5. 繰越金	4,741	4,741	0	100.0	0.5
6. 諸収入	16,249	16,426	177	101.1	1.8
合 計	913,820	915,188	1,368	100.1	100.0

第11表 款別歳出の状況

(単位：千円)

款	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不 用 額	執行率 %	構成比率 %
1. 議会費	451	425	0	26	94.2	0.1
2. 総務費	39,734	38,587	0	1,147	97.1	4.3
3. 事業費	35,743	35,411	0	332	99.1	3.9
4. 消防費	835,902	827,739	1,813	6,350	99.0	91.6
5. 公債費	1,179	1,163	0	16	98.6	0.1
6. 予備費	811	0	0	811	0	0.0
合 計	913,820	903,325	1,813	8,682	98.9	100.0

(4) 個別事項

① 歳入

(ア) 分担金及び負担金

予算現額913,820 千円に対し、収入済額は915,188 千円（前年度対比4.6%の増）である。

(イ) 使用料及び手数料

予算現額14,981 千円に対し、収入済額は16,175 千円（前年度対比5.3%の増）で予算に対する収入率は108.0%、調定額に対する収納率は100.0%である。

火葬場使用料件数は389 件、火葬場使用料収納済額は15,756 千円で完納されている。

(ウ) 財産収入

予算現額35 千円に対し、消防事業財政調整基金の利子の収入済額は33 千円で、予算に対する収入率は94.3%である。

(エ) 繰越金

予算現額 4,741 千円に対し、収入済額は 4,741 千円（前年度対比 31.6%の減）である。

(オ) 諸収入

予算現額 16,249 千円に対し、収入済額は 16,426 千円（前年度対比 230.2%の増）で、予算に対する収入率は101.1%、調定額に対する収納率は100.0 %である。

② 歳 出

(ア) 議会費

予算現額451 千円に対し、支出済額は425 千円（前年度対比3.4%の減）で、執行率は94.2%である。

(イ) 総務費

予算現額 39,734 千円に対し、支出済額は 38,587 千円（前年度対比 0.8%の減）で、執行率は97.1%である。

主な支出は、人件費及び広域事務組合共通管理経費である。

(ウ) 事業費

予算現額 35,743 千円に対し、支出済額は 35,411 千円（前年度対比 27.8%の減）で、執行率は99.1%である。

主な支出は、人件費並びに、施設及び火葬炉などの改修に係る投資的経費である。

(エ) 消防費

予算現額835,902 千円に対し、支出済額は827,739 千円（前年度対比 1.0%の増）で、執行率は99.0%である。

主な支出は、人件費及び消防本部管理上の物件費等経常的経費並びに、ブーム付多目的消防ポンプ自動車などを整備した投資的経費である。

(オ) 公債費

予算現額 1,179 千円に対し、起債に係る元金及び利子の支出済額は 1,163 千円で、執行率は 98.6%である。なお、地方債の令和6年度末現在高は 14,900 千円である。

第 1 2 表 性質別経費の状況

(単位：千円、%)

款	区分	令和 6 年度	構成比率	備 考
1. 議 会 費	人 件 費	315	74.1	
	物 件 費	110	25.9	
2. 総 務 費	人 件 費	28,321	73.4	
	物 件 費	10,165	26.3	
	維 持 補 修 費	0	0.0	
	補 助 費 等	101	0.3	
3. 事 業 費	人 件 費	23,739	67.0	
	物 件 費	6,494	18.4	
	維 持 補 修 費	757	2.1	
	扶 助 費	240	0.7	児童手当
	補 助 費 等	221	0.6	
	投 資 的 経 費	3,960	11.2	
4. 消 防 費	人 件 費	623,074	75.3	
	物 件 費	69,089	8.3	
	維 持 補 修 費	2,359	0.3	
	扶 助 費	5,915	0.7	児童手当
	補 助 費 等	7,490	0.9	
	投 資 的 経 費	119,779	14.5	
	積 立 金	33	0.0	消防事業財政調整基金利子
5. 公 債 費	公 債 費	1,163	100.0	起債償還金

第7 審査意見

本組合は事業費の大半を両町の負担金で賄っており、組合の事業性を十分に認識し、組織として効率的かつ効果的な方法を模索しながら業務を遂行する必要がある。

こうした状況の中、令和6年度一般会計において各事業の予算は、ほぼ計画どおりに執行されていることが確認された。

まず、火葬事業においては、広域美方苑施設が稼働してから約40年が経過していることから、経年劣化した火葬炉設備の改修（耐火物補修等）など、施設の長寿命化のために計画的な修繕や適正な維持管理等が行われている。

今後も、人口減少など事業を取り巻く状況や課題を把握しながら、業務の遂行にあたっては利用者の安全性及び利便性を確保するよう努められたい。

次に、消防事業では、第5次（変更）第6次消防体制整備計画に基づき、はしご車の更新車両として、ブーム付多目的消防ポンプ自動車を整備し、同車両に装備されている900Lのタンク水、圧縮空気泡消火装置、高低所へのアプローチが可能なブームなどを最大限に活用するため、消火戦術及び救助マニュアルの見直しを行い、災害への幅広い対応を図るとともに、特殊車両や資機材の有効活用に努められたい。

令和6年度においては、管内では幸いにして地震、台風などによる大きな被害はなかったものの、全国では地震の頻発や毎年のように発生する集中豪雨により大きな被害が発生している。また、乾燥期における大規模な林野火災が全国各地で発生している。

こうした自然災害を含む大規模な災害においては、公的機関による公助には限界があり、ともに支え合う自助共助が最も重要となってくる。自助共助の原点は、住民同士のつながりに基づく地域コミュニティ活動であることは言うまでもない。引き続き、講習会、訓練指導などを通じて地域の活動を支援するとともに、広報活動を充実することで災害に対する住民の知識向上を図り、災害時の被害を最小化すべく努められたい。